

救急集中治療医学

【目的】

- 1、診療参加型実習を通して、救急集中治療医学(Emergency & Critical Care Medicine)を実践(救急医療)する。
- 2、初期救急医療(Emergency Medicine)の基本を理解する。
- 3、集中治療医学(Critical Care Medicine)の基本を理解する。
- 4、病院前救急医学(Prehospital Acute Medicine)の基本を理解する。
- 5、災害医学(Disaster Medicine)の基本を理解する。
- 6、救急医療におけるチームアプローチを理解する。
- 7、救急医療における終末期ケアを知る。
- 8、医療の質とコストについて知る。

【実習の実際】

到達目標

救急疾患の初期治療および重症患者管理を題材として実習する。

【基本項目】

- ① 面接技法(接遇、診断情報の収集等)を学ぶ。
- ② バイタルサインと意識状態の評価法を学ぶ。
- ③ 頭頸部、胸部、腹部、四肢、神経系の観察法を学ぶ。
- ④ 基本的臨床検査を学ぶ。
例) 血液・生化学検査、12誘導心電図、胸・腹部 X 線検査、超音波検査、CT検査
- ⑤ 基本的治療法を学ぶ。
例) 薬物治療、輸液
- ⑥ 基本的手技を学ぶ。
例) 注射法、採血法、導尿法、局所麻酔法、創部消毒・ガーゼ交換法
- ⑦ 重症患者の全身管理法の基本を学ぶ。
例) 呼吸・循環管理、水分・電解質・栄養管理、感染症管理、鎮痛/鎮静および神経管理、血液浄化法
- ⑧ 患者・家族との良好な人間関係の重要性を学ぶ。
例) 患者・家族への心理的配慮、プライバシーへの配慮
- ⑨ 診療録(カルテ)を作成できる。
- ⑩ カンファレンスで担当患者のプレゼンテーションができる。

【病態別項目】

- ① 心停止や重症外傷患者の初期対応における基本的アプローチを学ぶ。
例) ALS、JATEC など標準化された評価・処置法
- ② 呼吸不全に対する気道確保、呼吸管理法の基本を学ぶ。
例) 血液ガス、用手気道確保法、酸素療法、気管挿管法、人工呼吸療法
- ③ 循環不全に対する評価、循環管理法の基本を学ぶ。
例) 循環モニター、血液検査、超音波エコー、輸液療法、薬物療法、循環補助療法
- ④ 意識障害に対する評価、画像診断法、緊急対応の基本を学ぶ。
例) 神経学的診察、血液検査、CT、MRI、脳波
- ⑤ 重症感染症に対する一般的アプローチを学ぶ。
例) 敗血症評価、血液検査、微生物検査、抗菌薬、外科的治療、補助療法
- ⑥ 生命や機能予後に係わる、緊急を要する病態に対して、優先順位に基づいた評価、処置法を学ぶ。
例) 急性呼吸不全、ショック、急性中毒、熱傷

スケジュール

週間スケジュール(学内)

- 1, 原則として2週間の診療参加型実習を行う。学内での実習は2月～3月の期間に限る。
- 2, 救急科チームの一員として、実習する。
- 3, 各人が2週間のうち2日間(平日1回、土日1回)の当直実習スケジュールを組む。

広島大学病院

指導担当

志馬 伸朗	教授
大下 慎一郎	准教授
津村 龍	講師
細川 康二	講師

指導補助;

太田 浩平	助教
田邊 優子	助教
山賀 聡之	助教
矢野 佳子	助教
鈴木 慶	助教
稲川 嵩紘	助教
京 道人	助教

学外スケジュール

原則2週間とする。

施設の選択

救急集中治療医学を選択した学生は個別に希望を聴取の上、日程を調整、確定する。
2週間を1区切りとし、1期間ごとに1施設が1名のみ受け入れる。
実習の詳細は学生が希望先研修施設指導統括医師と個別に調整すること。

学外の教育研修施設と指導統括医師名(メールアドレス)

県立広島病院 救命救急センター長

山野上 敬夫 (t.yamanoue@gmail.com)

広島市民病院 救急総合診療部長

内藤 博司 (erhiroshima@yahoo.co.jp)

広島総合病院 地域救命救急センター長

吉田 研一 (ykenichi@bronze.ocn.ne.jp)

安佐市民病院 集中麻酔治療科部長

世良 昭彦 (asera@mac.com)

独立行政法人国立病院機構 呉医療センター・中国がんセンター 救命救急センター長

岩崎 泰昌 (iwasakiy@kure-nh.go.jp)

独立行政法人労働者健康福祉機構 中国労災病院 救急部部長

中川 五男 (nakaitsu@chugokuh.johas.go.jp)

* 実習中に病気などやむを得ない理由により欠席する場合は、必ず学生支援グループ(電話;257-5050)および救急医学教室(082-257-5456)に連絡すること

【評価】

学生の評価は以下のように行う。

院内実習

評価項目	配点
指導医による学生の行動内容の評価	20
回診での患者提示のでき具合	20
教授試問および小テスト	20
プレゼンテーション	40

院外実習

評価項目	配点
指導医による学生の行動内容の評価	50
教授試問および小テスト	20
プレゼンテーション	30